

## 青年期の理想に関する研究 II

龜 田 久

Hisashi KAMEDA

### 序

第5巻においては、青年期の理想観を、その一般的な発達傾向について発表したのであるが、今回は青年期の理想観とそれをとりまく環境との関係を見る為に理想観と家庭の経済状態との間に如何なる関係が存在するかについて概括的な検討を試みた。

調査の対象は、前回と同一の中学生であり、経済状態については各担任教官の手を煩らわせ、経済的品等を依頼し、これを上、中、下の三段階とした。この段階付けは各担任教官において夫々独自の立場でなされている。

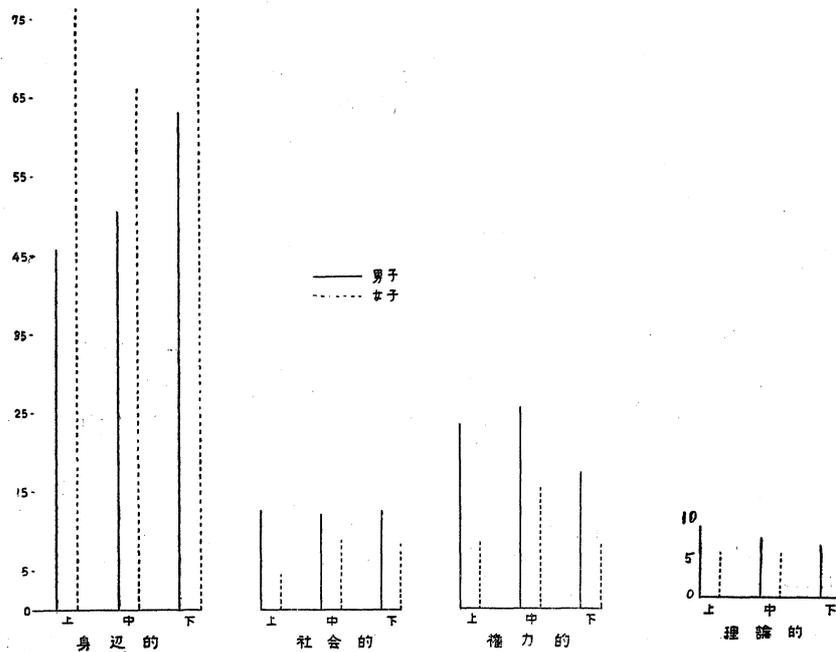
参考迄に上、中、下の割合を調べてみると、男子は、12.91%、72.27%、14.82%、女子は14.37%、70.33%、15.21%となつている。方法については前回報告した通りである。

### 結果の整理及び考察

結果の考察に当り問題を二つに分け、I) 如何なる類型の人物を理想人物としているか、II) 選択の理由を何れにおいているかについて検討を試みた。尙理想人物の類型については、身近的人物、社会的人物、権力的人物、理論的人物、其の他となつており、理由については、利他的理由、個人的理由、利己的理由に大別しているが、これはすべて前回同様である。

I) 結果を整理すると、第1図のようになつている。即ち、上、中、下各 class 共に身近的人物、

第 一 図



権力的人物, 社会的人物, 理論的人物の順となつている。又性別についてみると, 身辺的人物は, 女子が圧倒的に高くなつているが, それ以外はすべて男子の頻数が高くなつている。

身辺的人物については, 下, 上, 中の順となつて居り, 下, 上の間にはある程度の差がみられるが, 上, 中の間には余り差はみとめられない。性別については, 男子は下, 中, 上の順であり, 下, 中の間には相当の差がみられる。女子は下, 上, 中の順となつて居り, 下, 上の間には差がみられないが, 上, 中の間には相当の差がある。

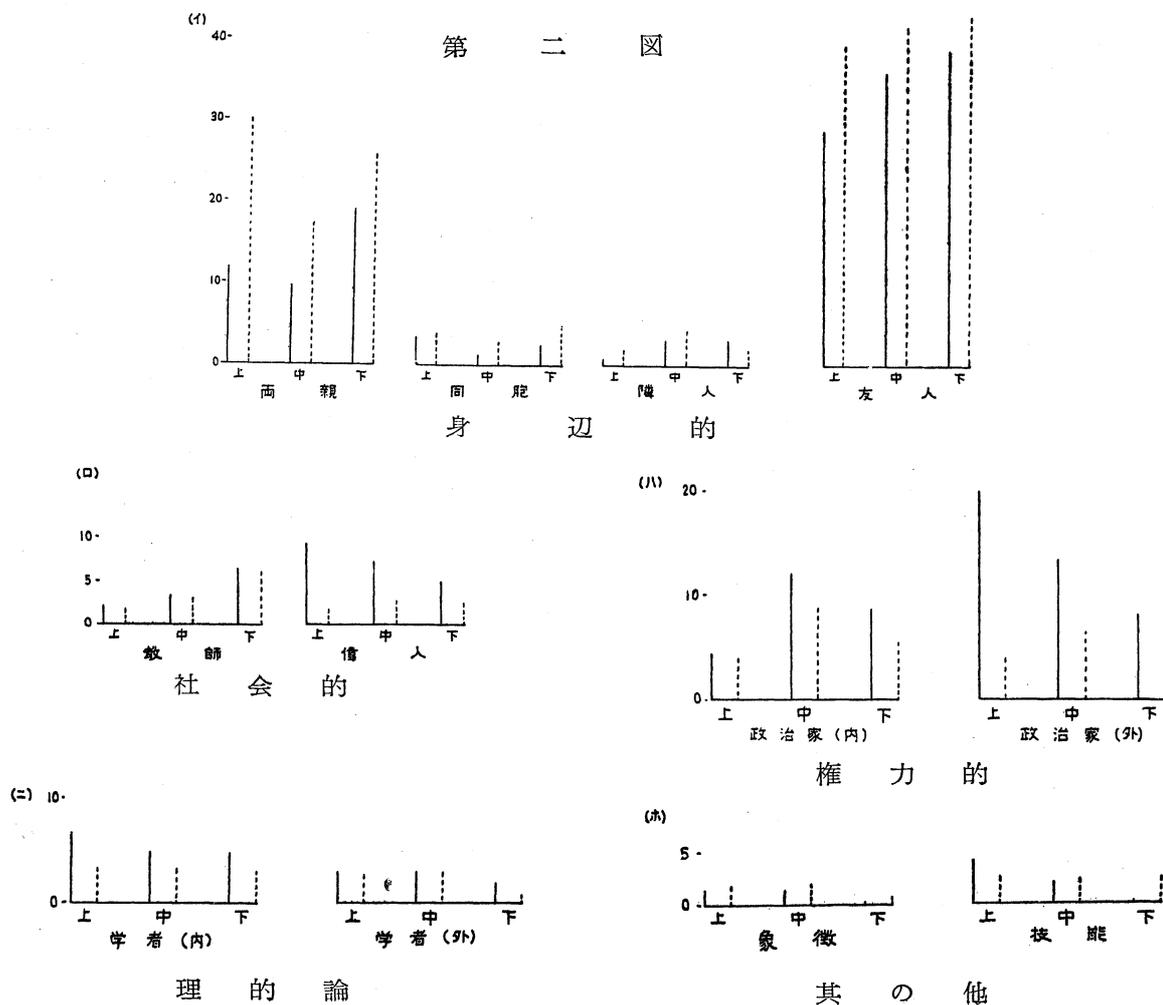
権力的人物については, 中, 上, 下の順で夫々等間隔の開きがみられる。性別については, 男子は中, 上, 下の順で, 上, 下の間にある程度の差があり, 女子も同様に中, 上, 下の順となつて居るが, 中が他の 2 Class に比し頻数が高くなつていることが顕著にみられる。

社会的人物については, 下, 中, 上の順となつて居り, この間に差はみられない。性別については, 男子は下, 上, 中の順となつて居るが, それらの間には殆ど差はみられない。

女子は下, 中, 上の順で, 中, 上の間には相当の差がみられる。

理論的人物については, 上, 中, 下の順となつて居り, それらの間には余り差はない。性別については, 男女共に上, 中, 下となつて居り, それらの間にも差はみられない。

次に各類型の人物の内容の主なものについて更に検討すれば, 第2図のようになつている。即ち



身辺的人物については、上、中、下共に友人が最高を示し、両親がこれに続き、同胞、隣人は非常に低くなつて居り、何れも女子が著しく高くなつて居る。友人については、男女共に下、中、上の順であり、女子は夫々の間に差はみられない。両親については、男子は下、上、[中の順となつて居り、上、中の間に余り差はみられない。女子は上、下、中の順で、夫々の間にある程度の差がみられるが特に下、中の間の差は顕著である。

権力的人物については、国内政治家は男子が女子に比し幾分頻数が高くなつて居るが、その間に余り差はみられず、男女共に中、下、上の順となつて居る。外国の政治家については、男子が圧倒的に高く、その順位は、上、中、下であり、上は特に顕著であり、女子は中、上、下となつて居る。

社会的人物の中、教師については、男女共に下、中、上の順となつて居るが、その間に殆ど差はみられず、又性別による差はみられない。偉人については、男子が頻数が高く、上、中、下の順であり、女子は中、下、上の順となつて居るが、中、下の間には殆ど差がみられない。

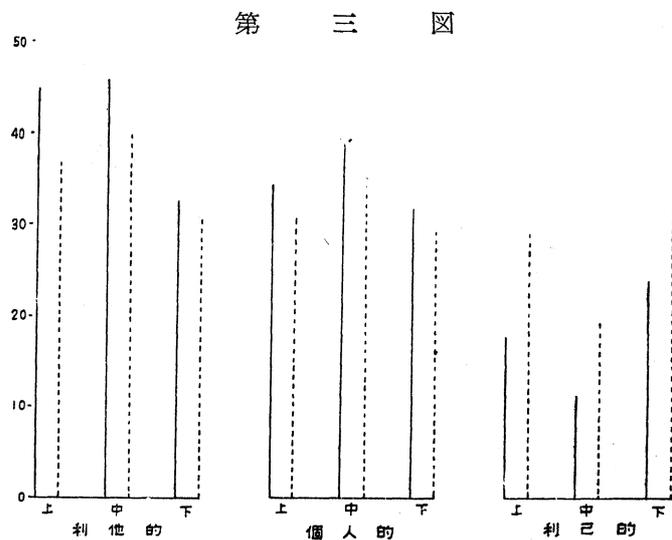
理論的人物の中、国内の学者については、男女共に同様な傾向を示し、上、中、下の順であり、中、下は男女共に同頻数を示し、各 class 間に殆ど差はみられない。外国の学者については、男女共に中、上、下の順であり、各 class 間、男女間に差はみられない。

其の他、技能的人物については、上 class の頻数にみるべきものがある程度で、他には殆んど見るべきものがない。

以上の結果から各 class 共身辺的人物を理想人物としてあげている者は女子に多いが、他の類型についてはすべて男子が女子を凌駕している。殊に上 class の男子は他 class の者に比し比較的少なくなつて居る。又権力的人物、理論的人物の中、外国人に対しては下 class では関心がうすく、女子において殊にこの傾向が著しい。

これを要するに身辺的人物、社会的人物については、前者は下、上、中の順であり、後者は下、中、上の順となつて居るのに対して、権力的人物、理論的人物については、前者は中、上、下の順であり、後者は上、中、下の順となつて居る。即ち、比較的身近かに接する者を理想人物として選ぶものは、下 class に多く、公的な人物を理想人物とする者は、上 class 或は中 class に多いということが出来るようである。ここに家庭の経済的影響による社会的視野の拡大並に社会的認識の時間的、空間的拡大の相違がみられるのではなからうか。

II) 次に彼等は選択の理由を何においているであろうか。結果を整理すると、第3図のようになつて居る。即ち、各 class 共に利他的理由、個人的理由



利己的理由の順となつて居るが、下 class の女子のみが利己的、利他的、個人的理由の順になつて居る。然しこの間には殆ど差はみられない。男子は各 class 共利他的、個人的理由の間には左程の差はみられないが、個人的、利己的理由との間には顕著な差がみられる。

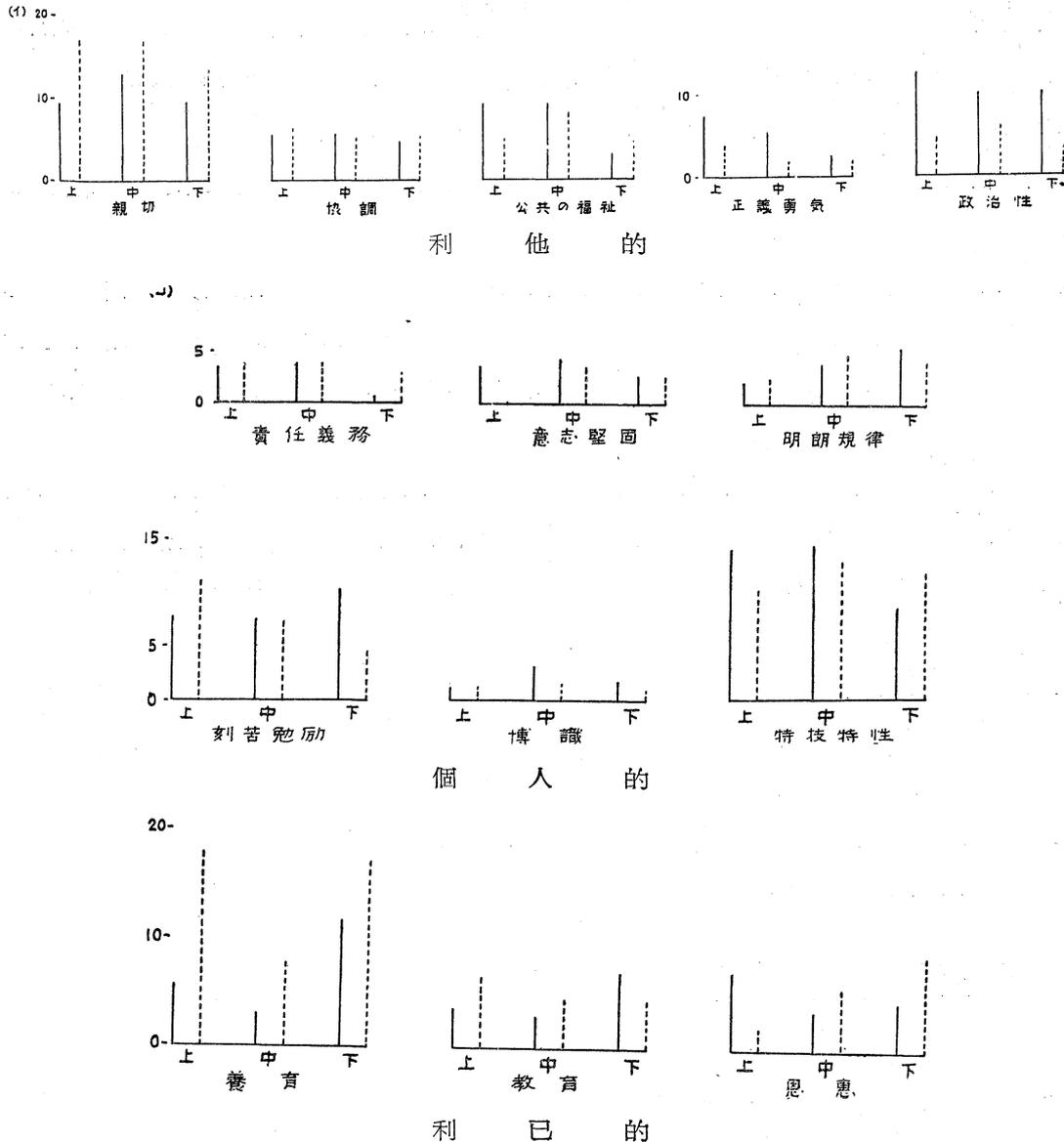
次に各 class 間の関係をみると、利他的理由では、男女共に中、上、下の順となつて居り、上、下の間の差が著しい。

個人的理由では、男女共に中、上、下の順であり、女子の場合は上、下の間には余り差はみられない。

利己的理由では、男女共に下、上、中の順となつて居り、男子は夫々の間の差が比較的判然としているが、女子は下、上の間には余り差はみられず、上、中の間に著しい差がみとめられる。

次に各理由の内容について更に検討すれば、第4図のようになつて居る。即ち、利他的理由につ

第 四 図



いては、親切、政治性、公共の福祉、協調の項目に比較的高い頻数がみられる。親切については、男子は中、下、上の順となつて居るが、下、上の間には殆ど差はみられない。女子は上、中、下の順であり、上、中の間には差は殆どみられない。政治性については、男子は上、下、中の順となつて居り、下、中の間には殆ど差はみられない。女子は中、上、下の順となつて居る。公共の福祉については、男女共に中、上、下の順であるが、男子は中、上の間に全く差はみられず、下は著しく低くなつて居る。女子は中 class が他に比し高くなつて居る。協調については、男子は上、中、下の順であり、女子は上、下、中の順となつて居るが、何れも殆ど差はみられない。

個人的理由については、特技特性、刻苦勉励が比較的頻数が高く、明朗規律、責任義務、意志堅固、博識が低いながら一応考えられる。特技特性については、男子は中、上、下の順であり、中、上の間には殆ど差はみられず、女子は中、下、上の順となり、各 class 同程度の差が僅か乍らみられる。刻苦勉励については、男子は下、中、上の順であり、中、上の間には差はみられない。女子は上、中、下の順となつて居り、男子とは逆順になつて居る。明朗規律については、男子は下、中、上の順であり、中、上の間に僅か乍ら差がみられる。女子の順位は中、下、上となつて居り、下、上の間にはある程度の差がみられる。その他責任義務については、男子は中、上、下の順であり、下は殆ど頻数がみられず、女子は上、中、下の順となつて居り、各 class 間に差は殆どみられない。意志堅固については、男子は中、上、下の順であり、女子は中、下、上の順となつて居り、中、下の間には殆ど差がみられないが、上は皆無となつて居る。

利己的理由については、養育が特に高く、恩恵的なもの（養育、教育を除く）、教育が主なものである。養育については、男子は下、上、中の順となつて居り、下が殊に著しく、女子は上、下、中の順となつて居り、上、下の間には殆ど差がみられないが、中は特に著しく低くなつて居る。各 class 共に女子が著しく高くなつて居るのが目立つて居る。教育については、男子は下が殊に高く、上、中と続き、女子は上、中、下となつて居り、男子程の顕著な差はみられない。恩恵的なものについては、男子は上、下、中の順であり、女子は下、中、上の順となつて居り、男子は上が特に高く、女子は下が高くなつて居り、対照的である。

以上選択の理由について、内容的に考察したのであるが、利他的な理由の中、親切、協調については、各 class 共に大体にして女子の頻数が高くなつて居るのに対して正義、勇気、政治性については明らかに男子が高くなつて居る。

個人的理由の中、責任義務は女子の頻数が高いということが出来るであろう。特技特性、意志堅固については、上、中は男子が高くなつて居り、明朗規律は女子が高くなつて居るということが出来る。

これを要するに利他的理由、個人的理由については男子が高く、利己的理由については、女子が明らかに高くなつて居る。又前述の如く利他的理由の中、親切、協調については女子が高く、政治性、正義勇気については男子が高くなつて居るのが目立つて居るが、ここにも男女の夫々の特異性が伺われる。

又下 class の者は、利他的理由よりも利己的な理由によつて理想人物を選んでいるということが出来るようである。このことは、女子において特に顕著に示されている。

青年期における社会的認識がどの程度主我的であるか現実的であるかは、個性によつて異なる。これは彼等の環境条件によつて非常に左右される。即ち、一般的に裕福な家庭の子弟より貧しい家庭の子弟が現実認識が早く進展するといわれているが、これらと関係づけて考える時非常に興味深いものが考えられるであろう。

---